

俳句



芹乃栄(せり すなわちさかう)

1月6日は、二十四節気では『小寒』、いわゆる「寒の入り」であり、いよいよ一年で寒さが最も厳しくなる時季を迎えます。

『小寒』から『大寒』へと続いて、立春の前日の節分までの約一ヶ月間は、「寒中」または「寒の内」と呼ばれ、寒さがピークに達していきます。

(宇佐美保幸)メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに 巣鴨とげぬき徒然俳句 https://blog-haiku.777usami.com 冬晴れや東京地下にマグマあり冬晴れの富士もいずれに大噴火西高東低東京冬晴

初早初初ペ降巣初 迎元元地元 春日旦球旦 湯起空鏡ツ起鴨詣 中きにやトしかイ ののににに やし電はたてらス 雪新聴はチ はブ波りち日スラ 景聞く八ン り口錯で何本カム 色資モ十ア 演グ綜るを列イ信 か源し億ナ 歌投この思島ツ者 なをツ人ゴ に稿んはう初りも 一浪アおか 酔初がたか茜ーお 初費ル正な を賽 なすト月 い仕らめ初 し事う息御 初銭 する協 ぞ空茜 び 奏 n 曲

に



昼酒にうかうか酔いし小正月寒北斗国歌斉唱ボクシング過ちは吾に有りしか寒北斗福寿草けなげな花が数競う

冬青空庭にひょこっと小鳥来る年金のおかげで生きる冬ぬくしたコータウン冬温かし明日日本寒牡丹いつの時代も孤高かない河には定位置ありて去年今年山河には定位置ありて去年今年本Iに振り回されて去年今年本Iに振り回されて去年今年本Iに振り回されて去年今年



白路熱無 川地き変 郷裏お換 闇に茶幼 夜昭一児 に和日の 浮が何言 か残度葉 びる冬冬 冬冬深の みそ機 深深し川 しし

白白大 愚愚少今 鳥鳥寒 かかしし ももの なな待ば 戦時夜 るるてし いにに 配導世て あ極働 り道く 者者すと 多多る準 てあ洗 くくぞ備 啀ら濯 冬冬との 合へ のの木木 芽芽のの 芽芽

起冬寒冬 きの月な る朝をれ か昨うば 支指出待 と夜ば冬 何の捨の 度夢て営 つか山み ぶ波に冬 や状ちの 樹樹冬冬 く雲さ庭 き吾 冬 \mathcal{O} 朝



凍冬 空の た蝿 不も 要の 不う 急く の飛 物ん 理で 学疎 ま

雪枯 かれ ぶす 枯む すを すか みぶ けれ りど 枯枯 芙芙 蓉蓉

厚ビ 雪お の迎 夜へ 統が りす 計来 的る れ雪 にま 誰で かブ 死口 ぬグ 雪し λ *W*

着リ 戸一口た 古ングひ しー て・ 確ジ 地ズ書と 図をくつ 東ユ起歳 定ョ 京二承を 申エ 告ル 散ク転重 歩口結ね 準聴 春で春て 備く 隣買隣春 す冬 う るの 隣 春 夜 隣 そ \mathcal{O} 昔

江ジブま



俳 旬

元元モモ

日日 1 ややロロ

モモクク

1111

口口無元

クク事日

男すに朝

寝れ目も

違ばが三

吾元き

旦や

水モモモモモ モモモ 演]] \mathcal{O} \square \square \square \square \square \square ぽククククク たししししし り水あさに意 ぽ洟のれら地 たす世どみを りす足脳返示 とり跡内しし モ見寝淑てて 一ら正気福福 ロれ月か笑笑 クけ ないい 1, 0

口口口 ククク ししし さ入数 れれを ど歯迷 節難い 目行し の雑雑 い吾覚時 雑煮煮 すはめ起 煮餅餅 カン な



モ ーなーー 口 クしされ してしし 何モ動す を一かべ どる 望口ざて り 寒 卵 茜鯉の 月

モしモモ モ寒モ寒 モ松松 モ湯 1 さ 1 く 1とと 1た ロびロロ ロかロな ロれれ ロん クれクク クなクる クてて クぽ し背しモ し怠さ しや 古も気 | さけれ さ頭 傷縮力ロ れ癖ど れ寒 痛み体ク どつ怠 ど足 みクるう むけ力す 今きけ 湯熱 む かすもと 寒りたれ 年モし たモな 寒れのま さモだば もーモ んー 見ど寒し か | 寒寒 福口 | ぽ口 舞寒の寒 な口いく 寿クロ 忘ク ク な 草すク れし し る す ず ず 12



寒寒唯 モモ寒 椿晴我 一卵 モれ独 口口割 一に尊 ククり ロさ寒 ししる クれ鴉 惰瞬力 進どご 性きや み巣と に多モ 従ごモ 生く き寒ロ わもし ずりロ て昴ク モク 寒す 昴 1す

クし

モモモモ 口口口口口 クククク 遠さ給浮 慮れ油世 ばどのの か欲時岸 モーり得間で の日日日 口 日向向向 クー向ぼぼぼ ぼこここ 口

着モモ 3 | | 今 くロロ 年 れクク てしし 煩用プ 悩なラ を 重 のきイ 道街ド ね モを捨 一着て 口膨て クれ着 して膨 れ る

去

年

馬

齢

す



モモモ モモモ 冬モモ モモ 蝶丨丨 丨 6 D D D D D 口口口口 口口口口 ククク ククク 人クク クク ししし 生もし しし ししし せささ い休饒 風空 えられ ろ息舌 のっ 自さな 由れら をにど いのと ふぽ くれ眠 不どぬ 自宇物 由宙見 冬やて の冬冬 空のの 空闇 蓉脚 れ 伸

3

モモ着]] 膨 ロロれ ククて しし脳 着着は ぶ膨休 れてモ 吾ゆし はくロ 天スク 邪ーす 鬼パ に



モ反 冬モ 干 |抗の| 口期 星口 口 クモ 行ク クし冷たき空を恐れ り



りし座して体操をてーロクすれどなりと愚痴も届から 冬冬 モぬ 座の | 冬 敷絮ロのけ ク星 す



たべもの俳句

三が日麻婆豆腐を待ち焦がれ齢重ね入れ歯を襲う雑煮かなテレビには格差社会のおせちあり

冬野菜具材がごろっと冬カレー歳とれどされどカレーを四日かな

お白 春カほ 汁菜 巻リう きカれ 粉の にリん で千 おに草 ほ切 かり もじ緑 ほサ ちゃの かラ あが映 心ダ んいえ こもる 外生 でお常 はサ 雪ラ パも夜 ダ リち鍋 ツガ パレ リッ 1

12

ロッ

コ

リーニンニクきかせサブジ

風



駅そばの匂い誘われ去年今年

帆立缶トロトロ湯豆腐舌を焼くたっぷりの葱を加えて鰤しゃぶを

混風 成た ぜ邪 人べ ごを 式も 今の 飯ひ 大き 日俳 根レ は句 のバ 特… 別ぶ 葉ニ のラ スり テの ほ炒 ろめ 一づ 苦ス キけ クタミナを を丼

おそば屋で鍋焼きうどんぽかぽかに胸肉に下味つけて焼鶏に混ぜご飯大根の葉のほろ苦さ

豚

肉

と白菜煮込みとろうどん

大大

寒寒

のや

ブ燗

ラ酒

ッ好

クき

コで

ヒ寒

1 に

苦耐

みえ

よし



み味 冬芽 十手 牡クク豆 蠣リリ乳を一一の そ噌 キキ 五羽 バ煮 ヤヤ 分元 ベベ だと 焼ミムは タ込 き - 煮り 香ソには し大 | み ツツ 鶏う シに が根 じど りーたりふスら鍋 ン焼 しポ やん プき みン っぴとで が熱ル目 込酢 む煮 くつじ暖 こ々 スを ぶさ らたゃま つ冬 一つ く深 プけ りつ 牡りがる 大ぱ 蠣牡い りし ホて 根りピ蠣も 日 ツパ 脚 とス کے ラシあ すタ フチつ 伸 5 るか ュあ 10 な

で







